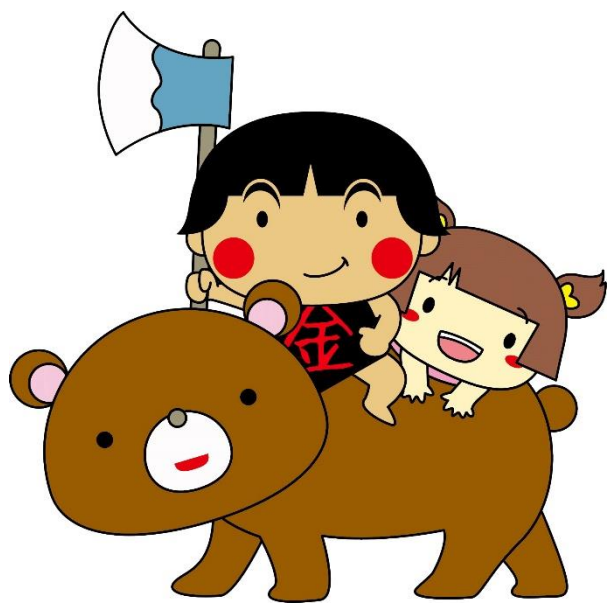


第3期

# 西黒田地区福祉活動計画

2024年～2028年

(令和6年～令和10年)



西黒田地区福祉活動計画策定委員会

# 目 次

<b>1. 計画の概要</b>	
▶策定の背景	p. 3
▶計画の位置づけ	p. 3
<b>2. 計画策定に関わる情報</b>	
▶第2期計画期間をふり返って	p. 4
▶西黒田地区福祉データ	p. 5
▶アンケート調査結果より	p. 8
▶福祉懇談会より	p. 12
<b>3. 理念と基本目標</b>	
▶理念と基本目標	p. 14
▶基本目標1「ほっとする居場所づくり」	p. 14
▶基本目標2「安全・安心な地域づくり」	p. 15
▶基本目標3「誰もが暮らしやすい仕組みづくり」	p. 16
<b>4. 計画の推進方法</b>	
▶計画の推進方法	p. 18
▶計画の推進体制	p. 18
<b>5. 計画策定に関わる資料</b>	
▶計画推進に関わる作業概要（日程）	p. 19
▶計画推進委員会名簿	p. 20

## 1. 計画の概要

### ▶策定の背景

#### ◆地域福祉は次の段階へ

西黒田地区では、平成28年(2016年)に「第1期西黒田地区福祉活動計画」、平成31年(2019年)には「第2期西黒田地区福祉活動計画(以下、「第2期計画」という)」を策定し、「笑顔がつながるまちづくり～あいさつが心に響く、金太郎の里をめざして～」を基本理念に様々な活動に取り組み、展開してきました。この間にも地区内では高齢化が進み、支援を必要とする人は増加しています。また、隣近所のつながりの希薄化や地域活動の担い手の減少などの地域課題のほか、新型コロナウイルスの影響もあり、生活困窮、ひきこもりなど地域の中での孤立といった新たな課題も浮き彫りになり、「地域共生社会」の推進に向けたさらなる取り組みが必要とされています。

今回、第2期計画が令和6年3月末で完了することから、西黒田地区の地域福祉をさらに発展的に推進し、かつ新たな課題への対応を図っていくために、「第3期西黒田地区福祉活動計画(以下、「第3期計画」という。)」を策定します。

### ▶計画の位置づけ

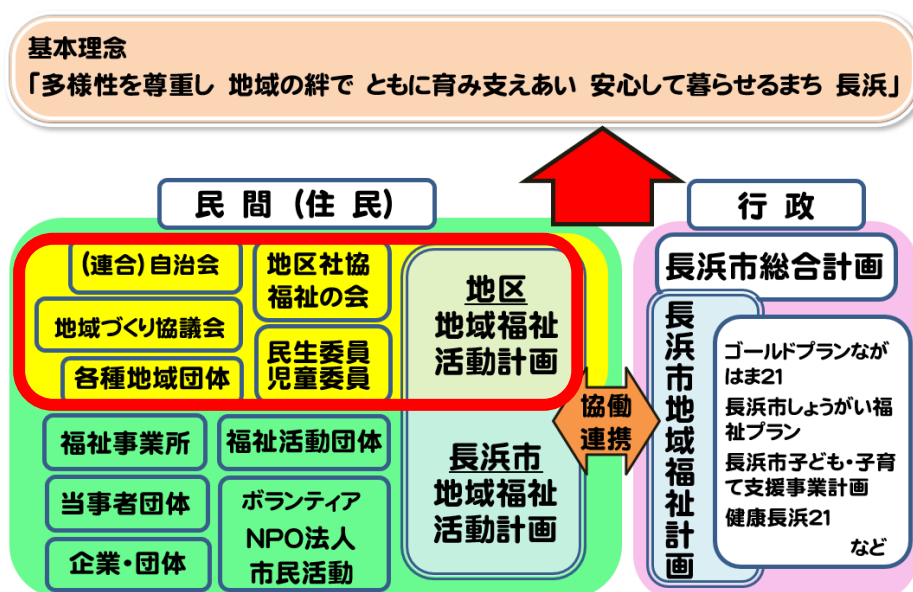
#### ◆地区、市のエリアを活かした一体的な計画

西黒田地区福祉活動計画は、長浜市地域福祉活動計画と連動し「住民参加」による活動・実践と行政や関係機関・団体との「協働」を図りながら、福祉課題の解決を目指し、「住民主体による福祉のまちづくり」を進める計画です。

「長浜市地域福祉活動計画」と一体的に策定することで、市域、地区域のエリアによる活動メリットを最大限活かせる活動展開を計画します。

また、長浜市が策定する行政の地域福祉に対する施策計画である「長浜市地域福祉計画」と連携・協働し、公民協働による地域福祉を推進します。

## 計画の位置づけ



## 2. 計画策定に関わる情報

### ▶第2期計画期間をふり返って

西黒田地区では、平成31年に第2期計画を策定し、“笑顔がつながるまちづくり～あいさつが心に響く、金太郎の里をめざして～”をスローガンとし、3つの基本目標に沿って、子どもから高齢者まで様々な世代の地域福祉に関する取り組みを進めてきました。

#### ◆基本目標① 支えあい安心して暮らせる地域づくり

生活支援活動団体「西黒田きんたろうサポート会」の活動については、コロナ禍においても買い物ツアーの継続や病院送迎、ちょこっとサポート等、住民のニーズに合わせた活動を実施することができました。ただ、サポーター数の減少、買い物ツアー参加者の減少、病院送迎時の拘束時間の長さによる負担が課題として挙げられます。

見守り活動は、全自治会における福社会議の開催、防災・福祉マップの取り組みを実施し、自治会や民生委員、福祉委員等が連携して見守り活動に取り組む体制を整えることができました。

また、活動の中で浮き彫りになる様々な困りごとを地域課題として捉え、皆で解決方法を検討する「暮らしの支えあい検討会」も毎年4回ずつ開催し、専門職とも連携しながら課題の共有や取り組みの検討を実施しました。令和5年度からは、コアメンバーによる「かなえちゃん会議」で暮らしの支えあい検討会の充実した開催に向け企画等を行いました。

#### ◆基本目標② 子どもから高齢者までつながりあえる関係づくり

各自治会で開催されるサロンや転倒予防自主グループの活動を応援し、地域住民が安心して集える居場所の継続に努めました。また、毎年サロンボランティアを対象に交流会を開催し、コロナ禍における開催方法や取り組みのアイデアについて情報共有等を行いました。しかし、活動自粛の影響は大きく、参加者もスタッフも高齢化が進んだことにより活動継続が困難となり、解散したグループもあります。一旦休止した活動の復活は難しく、今後も活動継続に向け支援が必要です。

新たな取組みとして、きんたろう茶屋を週3回オープンし、居場所づくりに取り組みました。西黒田きんたろうサポート会の事務所兼地域住民の居場所を目的としていますが、利用者がいない日も多いため、今後の運営方法等検討が必要です。

子どもと地域住民とのつながりは、各自治会でスクールガードの取り組みを熱心に行い、継続することで挨拶ができています。毎日の取り組みで関係構築でき、子どもたちの様子の変化に気づくことができるようになりました。休日出会った時もお互い気楽に挨拶し合えるような関係づくりを大切にするため、今後も大人も含めた挨拶運動の活性化が重要と考えられます。

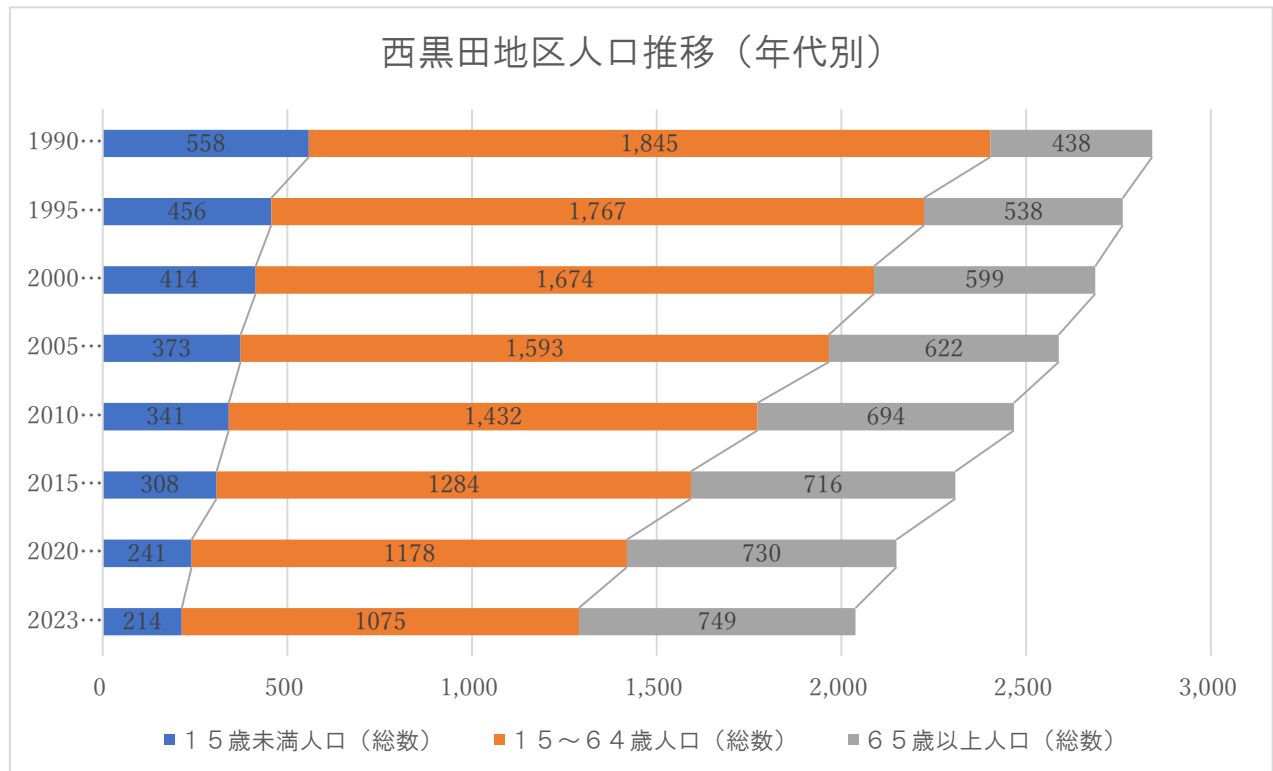
#### ◆基本目標③ 西黒田の特色を活かした地域づくり

学校等の施設との連携については、感染防止の観点で施設への訪問受け入れをされない時期が長く続き、以前のような連携は難しい状況でした。

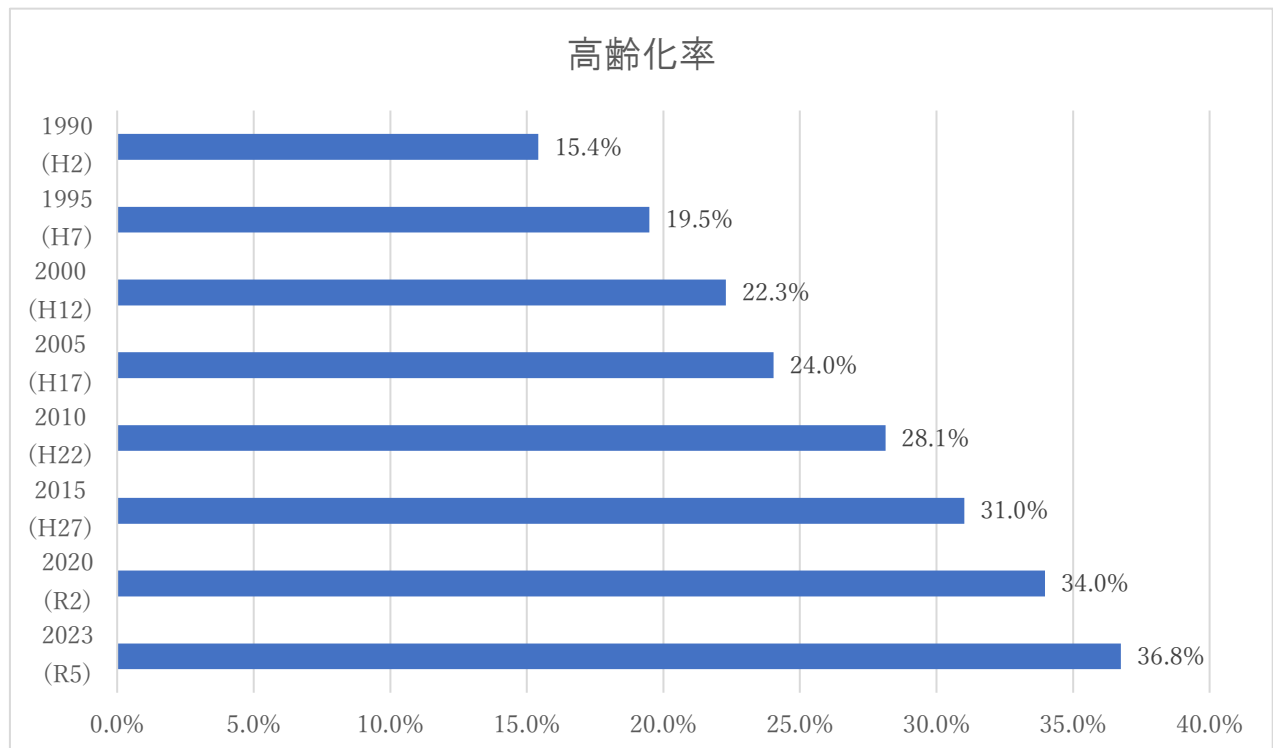
ご近所さんとの日ごろからのお付き合いはあたたかく続いています。お互いに声をかけ合い、自治会の中の情報は何となく皆知っている、というつながりができています。

▶西黒田地区福祉データ

◆人口と推移

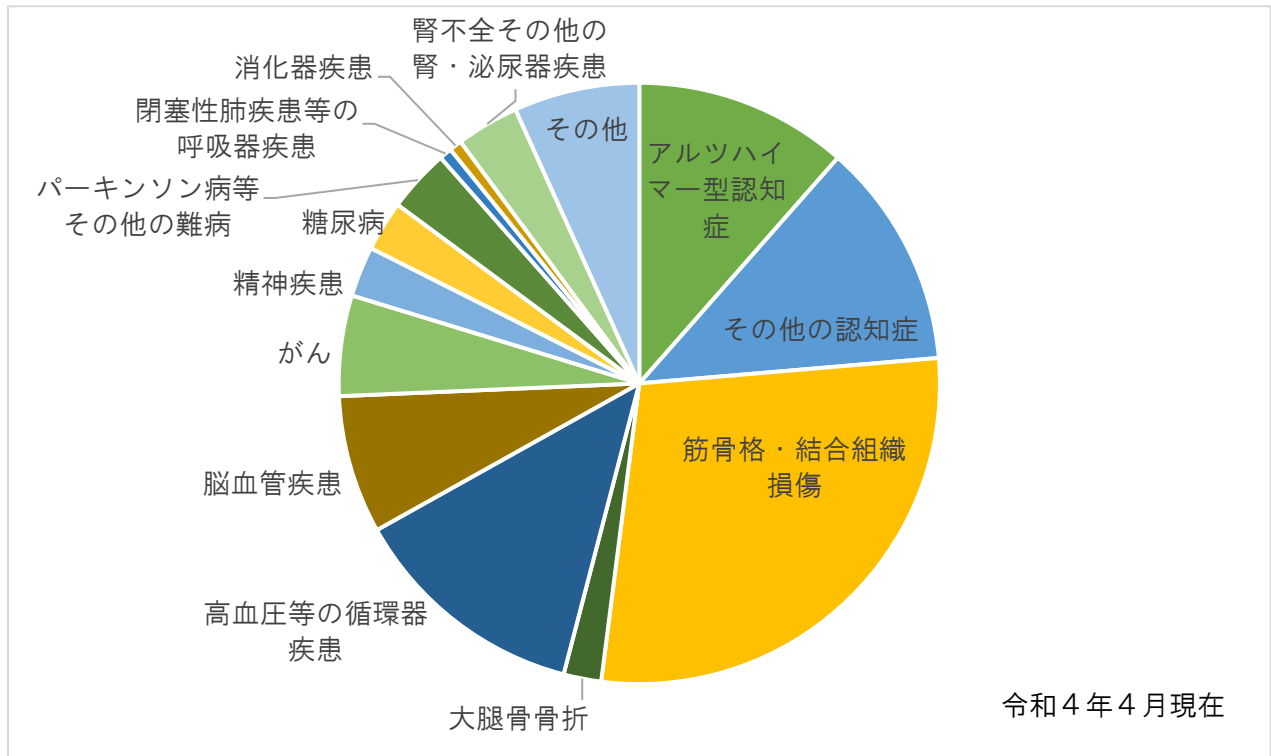


◆高齢化率

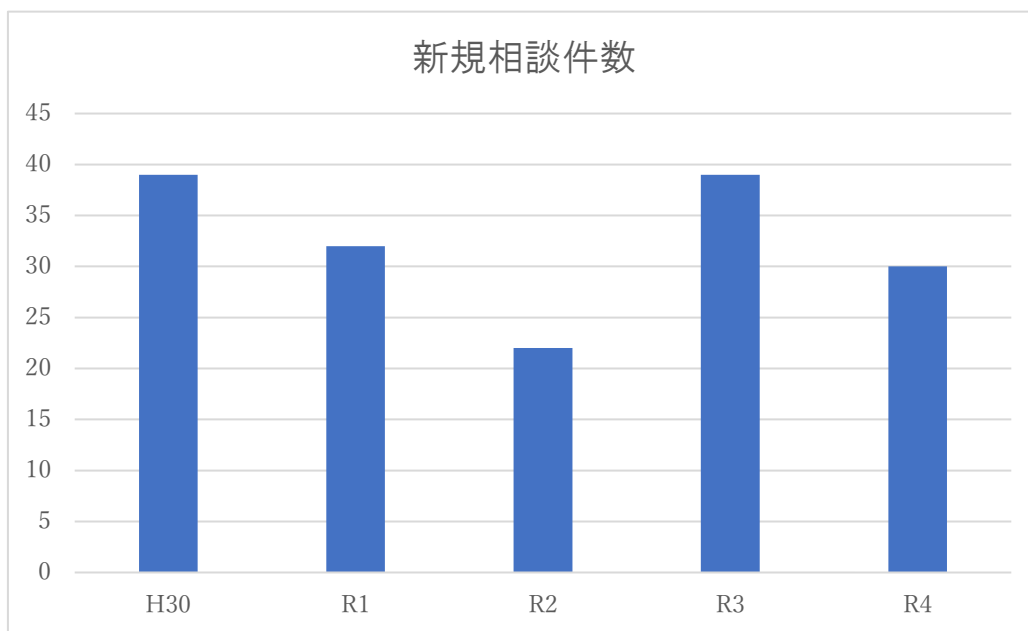


人口の推移をみると、年少人口、生産年齢人口が年々減少し、高齢化率が着実に高くなっています。

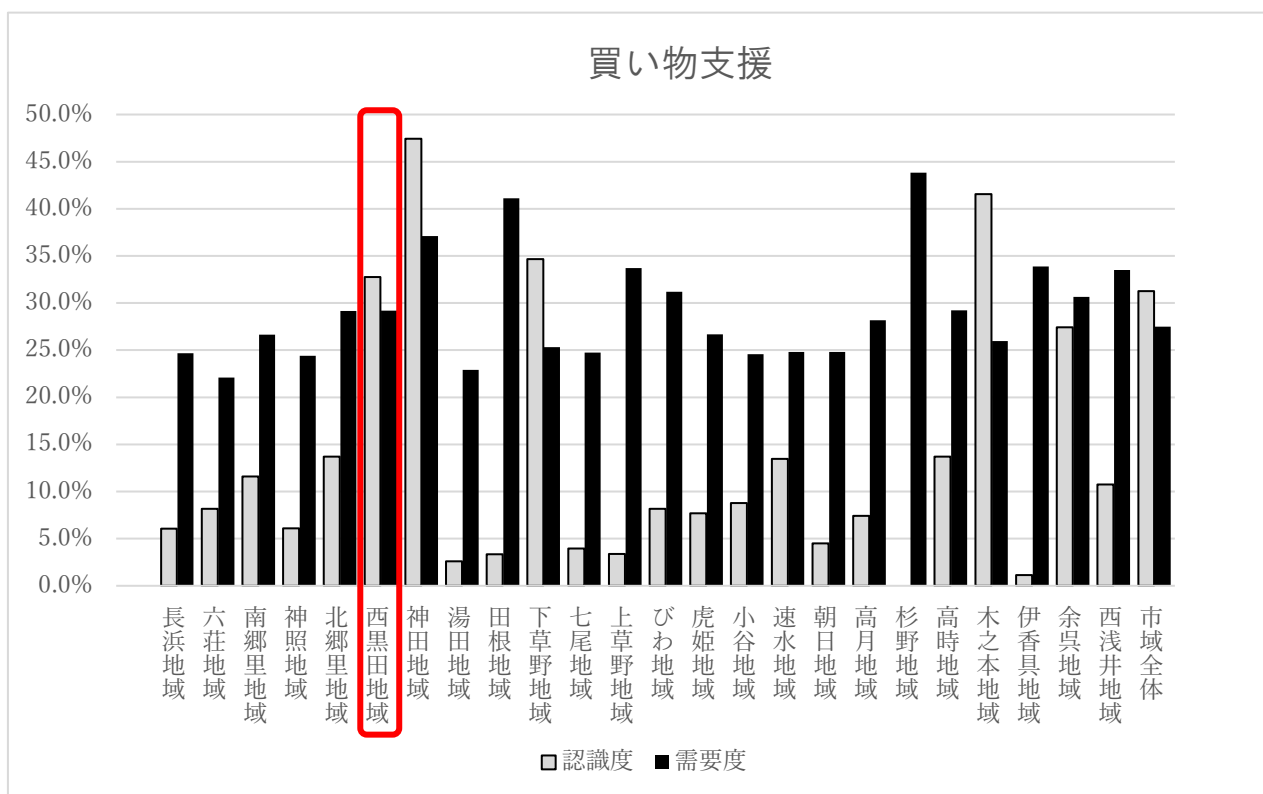
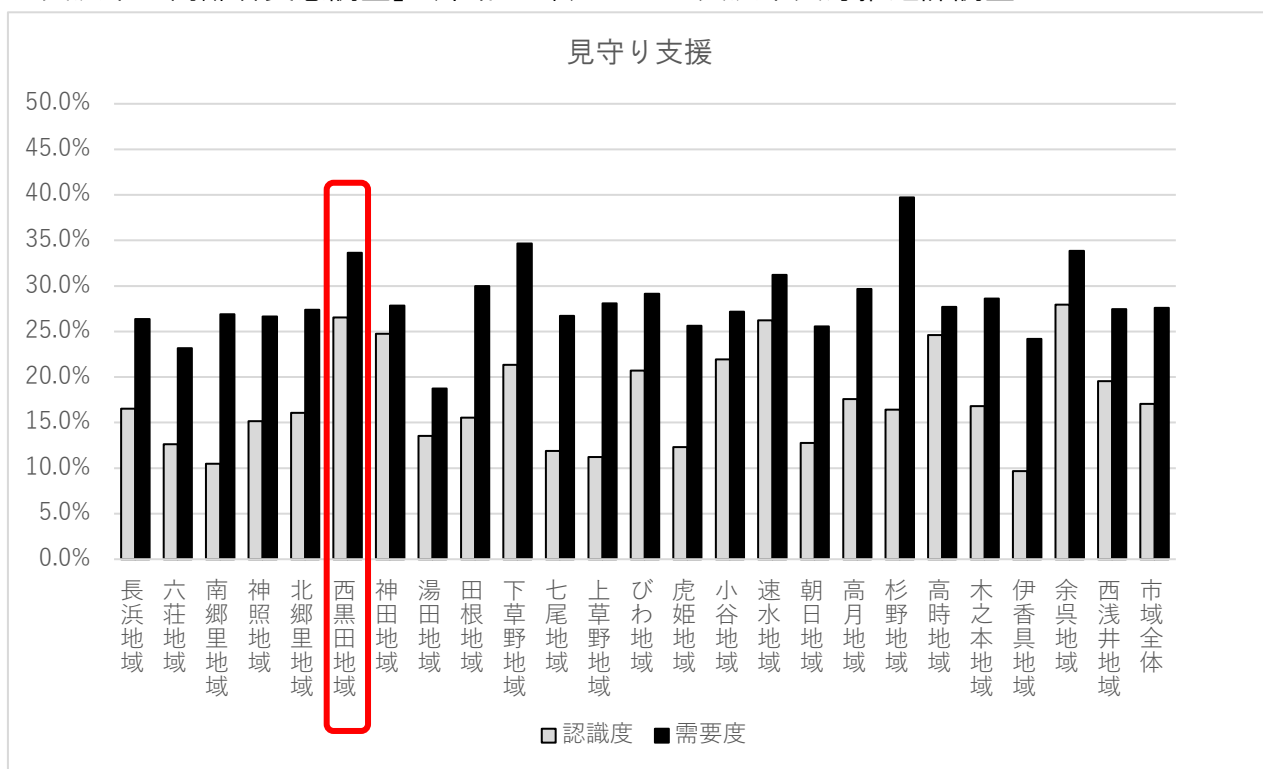
◆ 65歳以上の要介護認定者の原因疾患別割合 ※長浜市長寿推進課調査



◆ 地域包括支援センターへの新規相談件数 ※南長浜地域包括支援センター調査



65歳以上の高齢者が要介護認定をうける原因疾患としては、筋骨格・結合組織損傷や大腿骨骨折が1/4以上となり、認知症が2番目に多くなっています。高齢者の総合相談窓口である南長浜地域包括支援センターへの新規相談件数は、毎年周知活動を行っていますが増加していません。相談内容も、重度化してからの内容が多く、早期相談が少ない傾向が続いています。相談件数が減少した令和2年度については、コロナ禍による近所間の交流等の機会減少で、困りごとが見えにくくなった影響があると考えられます。

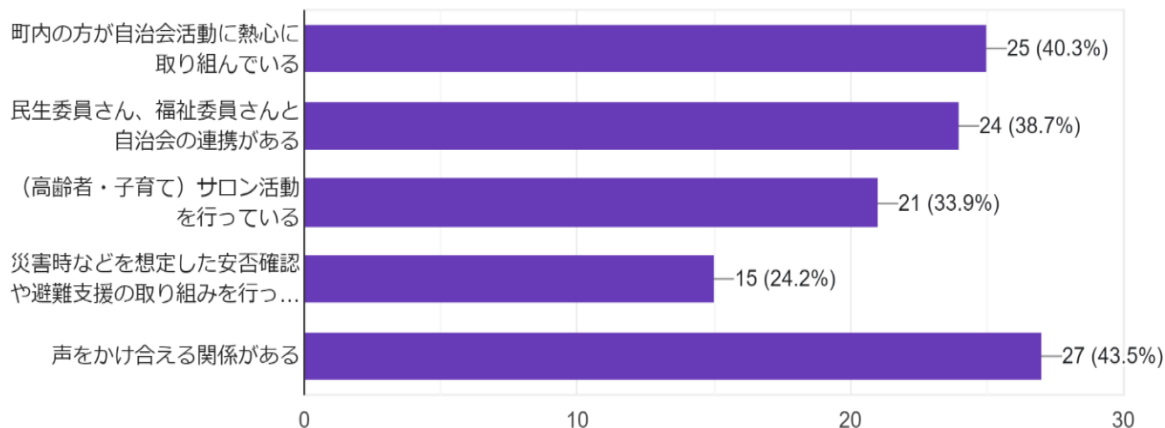


高齢者実態調査からみる見守り支援の認識度、将来需要度は、市内でも高い結果が出ています。また、買い物支援についても、現在活動していることから認識度、将来需要度ともに高くなっています。

▶西黒田地区アンケート調査結果

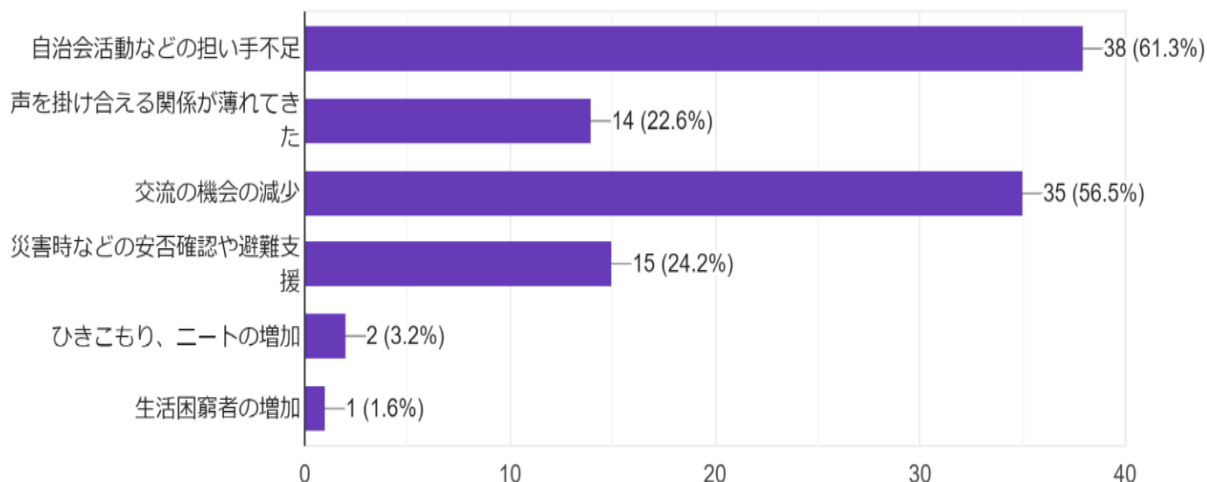
◆町内の（福祉的な）強み、良いところ（2つまで選択）

【福祉関係者対象】



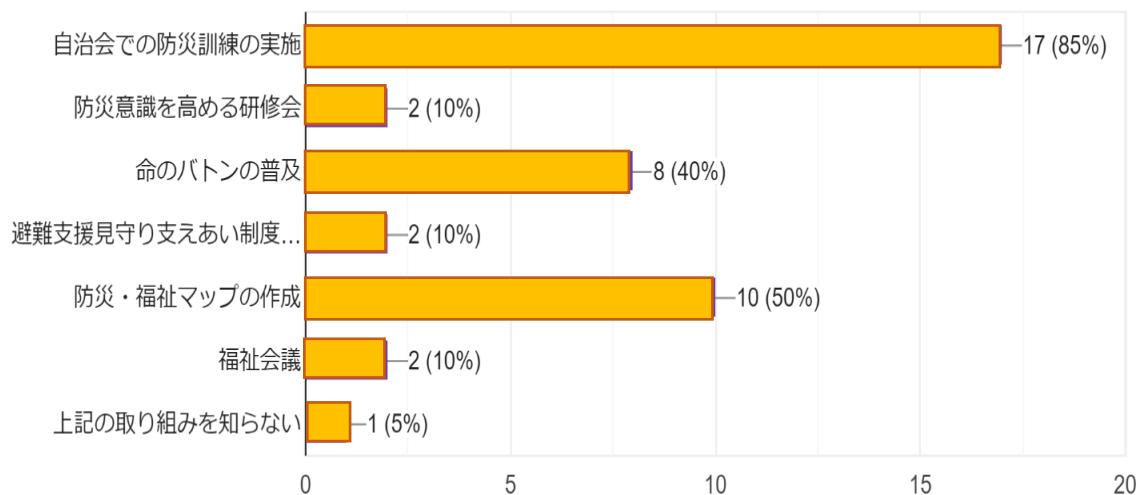
◆町内の（福祉的な）課題（2つまで選択）

【福祉関係者対象】



◆自治会や地区で知っている取り組み（複数回答可）

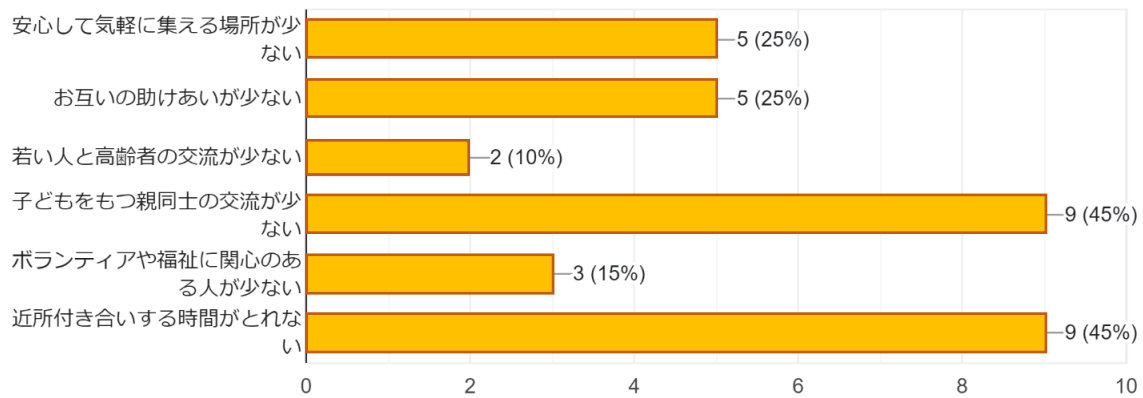
【子育て世代対象】





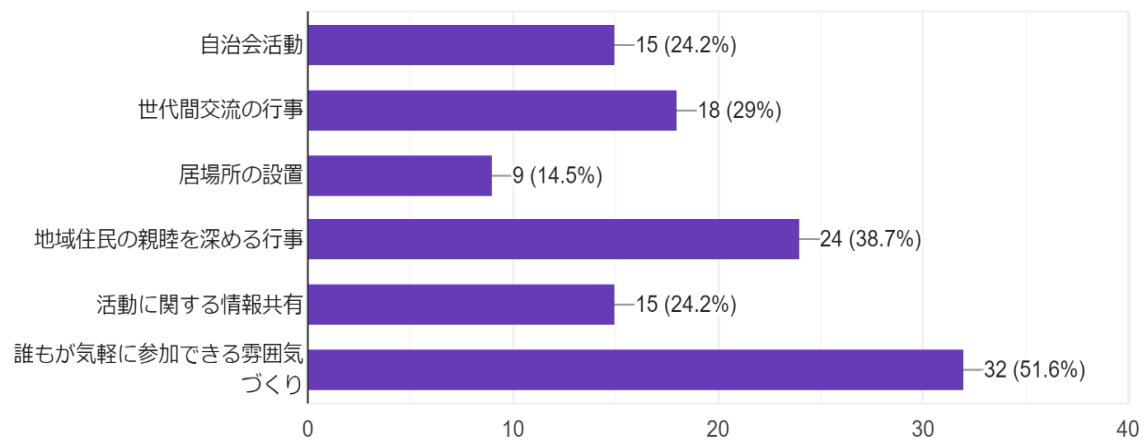
◆普段の暮らしの中で、住民の交流について気になっていること（2つまで選択）

【子育て世代対象】

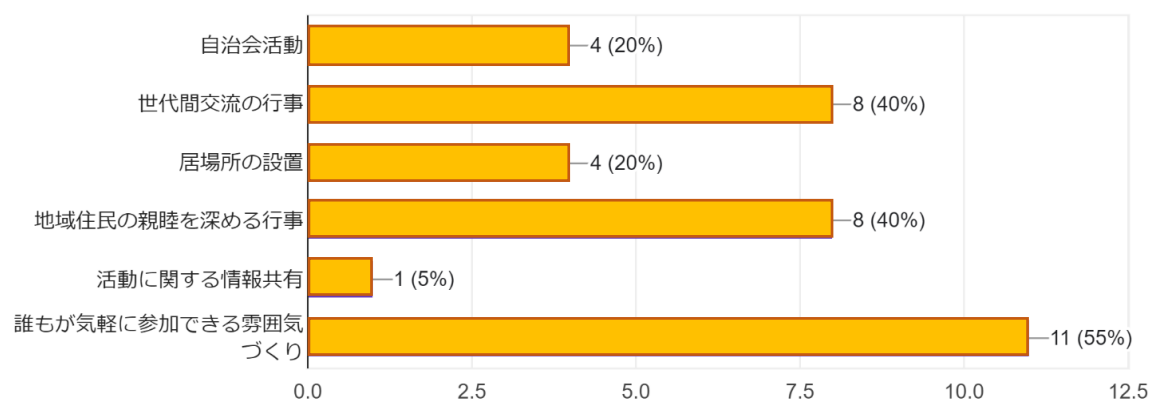


◆町内のつながりやコミュニティを守るために取り組むといいこと（2つまで選択）

【福祉関係者対象】

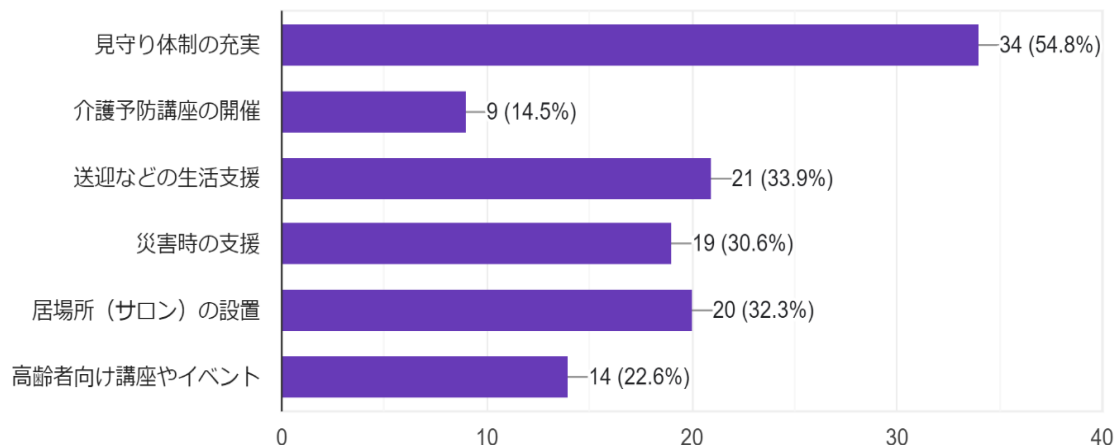


【子育て世代対象】



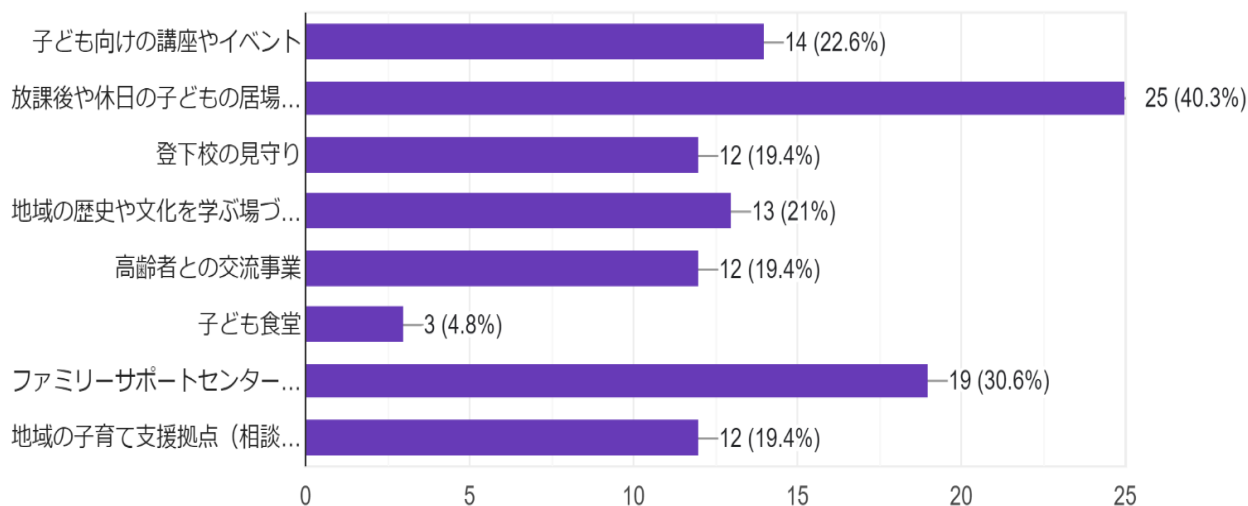
◆高齢者が安心して暮らすために取り組むといいこと（2つまで選択）

【福祉関係者対象】

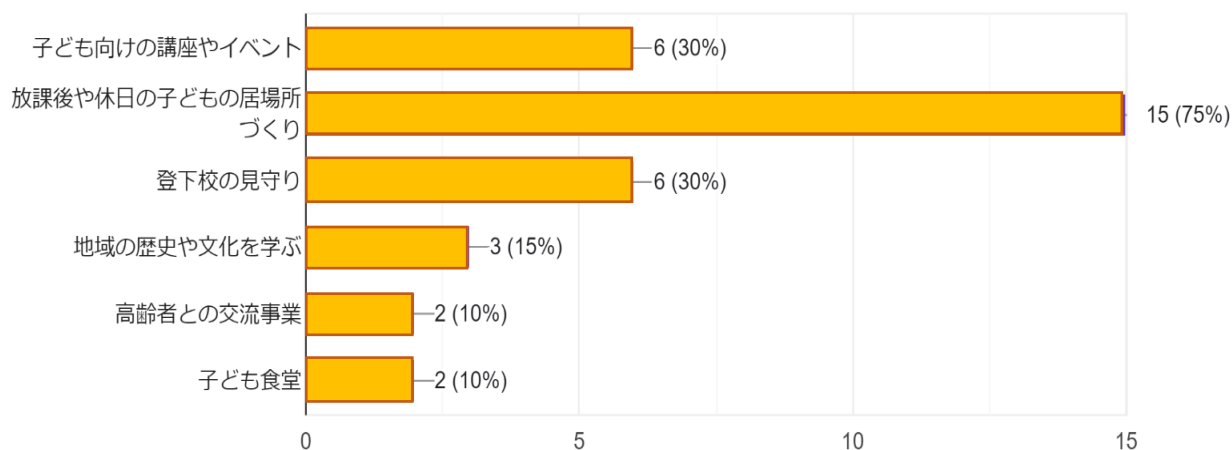


◆子どもの育成のために取り組むといいこと（2つまで選択）

【福祉関係者対象】

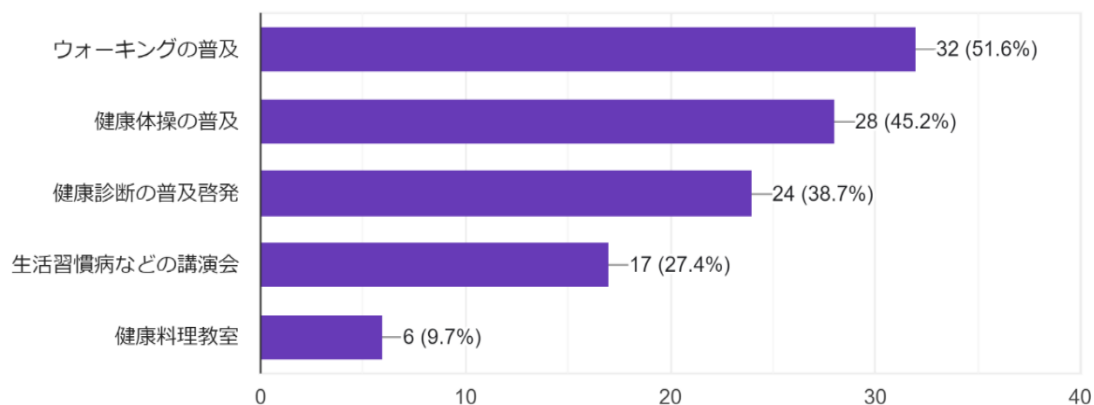


【子育て世代対象】



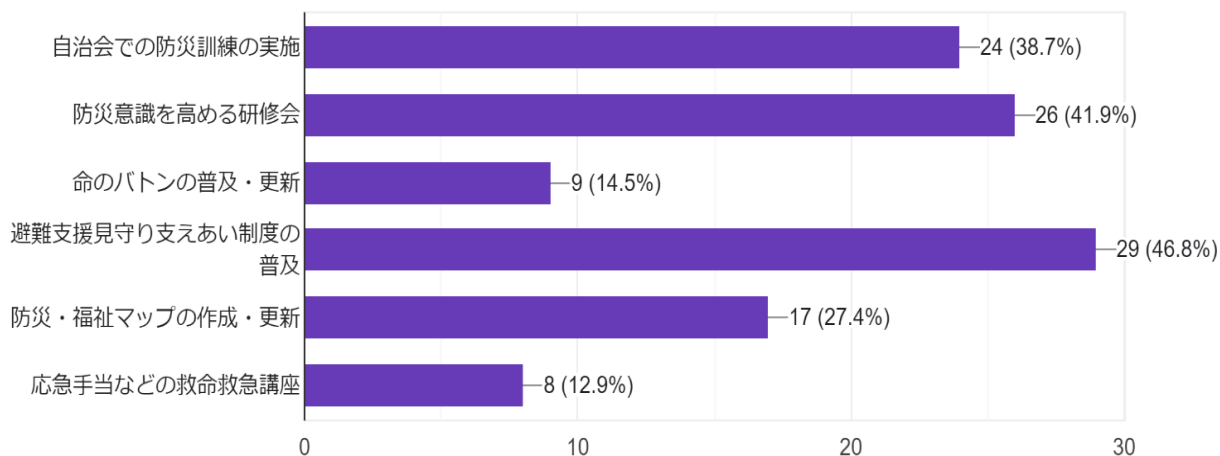
◆健康のために取り組むといいこと（2つまで選択）

【福祉関係者対象】

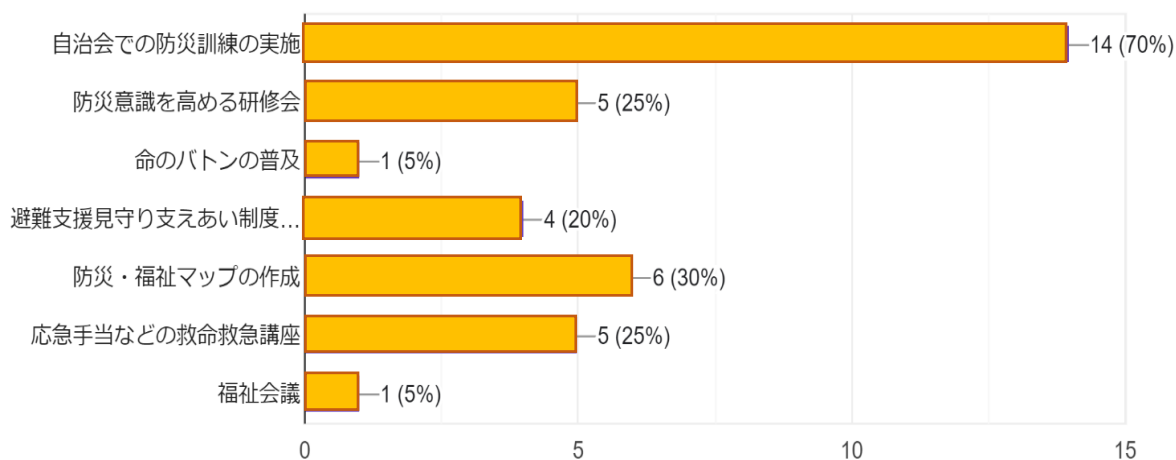


◆災害から命を守るために取り組むといいこと（2つまで選択）

【福祉関係者対象】

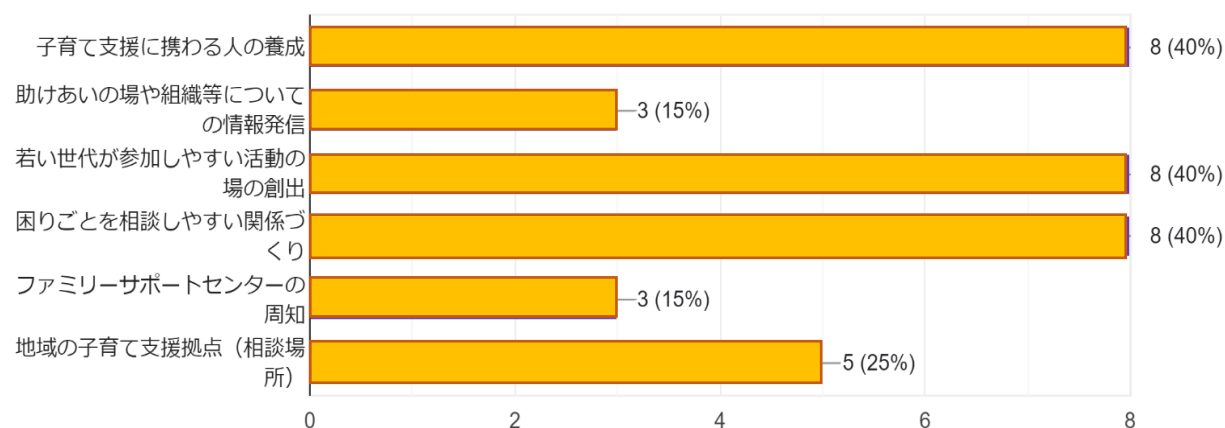


【子育て世代対象】



◆子どもの育成に関する取り組みで重要なこと（2つまで選択）

## 【子育て世代対象】



アンケートは、福祉関係者と子育て世代を対象にそれぞれ実施しました。人間関係の希薄化が課題となっている現代ですが、地区内では声をかけあえるつながりが残っているという認識を持つ人が多いという回答でした。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、交流事業や居場所等の取り組みが減少しており、そういった取り組みを必要とする意見が多く出ました。災害に備えた取り組みについては、自治会を中心に防災訓練等の実施や避難支援・見守り支えあい制度普及等により体制を整える必要があると考える人が多くありました。

子どもの育成については、核家族化や共働きの世帯の増加、習い事等により、子どもどうしが交流する機会が少ないことから、放課後や休日の子供の居場所づくりが必要であるという意見が多くありました。また、子育て世代の人は子どもの送迎や自身の仕事等で地域行事に参加する余裕がない人も多く、悩みや情報を共有できる場所・関係づくりを求めていることも明らかになりました。

### ▶福祉懇談会より

令和5年7月に福祉懇談会を開催し、各団体代表者等による意見交換会を行いました。「第3期長浜市地域福祉活動計画」の8つの基本目標の中から5つのテーマを設定し、個人、自治会単位、地区全体の3段階の規模で今後どのような取り組みが必要かについて検討した結果、下記のような意見がまとめられました。

#### 1) 開催日時

令和5年7月15日（土）19：00～20：50

#### 2) 出席者

西黒田地区社会福祉協議会、西黒田地区ふるさと振興会議、民生委員児童委員・主任児童委員、福祉委員、自治会長、西黒田きんたろうサポート会

#### 3) テーマ

#### ◆住民どうしのつながりを広げる交流の機会と活動への参画について

懐かしい井戸端会議のような雰囲気でご近所さんとのつながりを深めることで、自治会のサロン等に参加しない人に対しても声を掛けやすく参加しやすい雰囲気づくりができると考えられます。

「サロン」は高齢者の集まりというイメージがある方も多いですが、「全世代型」を目指し、地藏盆等様々な世代が参加できる場、また皆が顔を合わせる場の創出が大切であると言えます。自

治会規模で具体的な企画調整を行い、実際の場の創出につなげます。

金太郎フェス等の地区全体の交流の場も積極的に開催し、他自治会とのつながりを育みます。会場までの交通手段がない人は西黒田きんたろうサポート会が送迎支援を行うことにより、より多くの方の参加を図ります。

#### ◆人と人とのつながりを深める居場所づくりについて

年代が異なると流行や趣味等が異なることも多く、話が合わないこともあります。年代の近い人と気軽に楽しめる居場所をつくることにより、参加へのハードルが下がり孤立防止につながります。

また、同年代のつながりだけでなく、子どもたちも含め地域住民が誰でも集まれる機会の創出についても、地区住民のつながりを深めるために重要な居場所になると考えられます。

どちらも、参加者が「楽しい」「また参加したい」と思えるような居場所づくりが重要で、自治会や地区の支援が後押しになると考えられます。

#### ◆身近な暮らしの困りごとを相談できる地域づくりについて

困りごとは、認知症やしょうがい、世代や風習等様々な理由が考えられ、とことん困らなければ相談しづらい人も多いのが現状です。このような課題に対し、いかに相談しやすい環境をつくるかが重要になってきます。日ごろから個人や自治会の規模で気軽に話せる関係づくりに取り組みます。また、「助けて」と言いづらい人のサインに気づけるよう、普段と異なる様子がないか気かけながら関わります。相談を受ける立場の人も、専門機関等の情報を知り、一人で抱え込まずつなげることができるよう体制を整える必要があります。

#### ◆災害時を想定した地域の支えあい体制づくりについて

西黒田地区はこれまで大きな被災等が少なく、防災に対する意識が低いのが現状です。近年の異常気象による災害に備え、特に地震や大雨、火事等を想定した準備が必要です。備蓄は個人や自治会、地区の各単位でそれぞれに確保が必要ですが、自治会等が率先して準備を行うことにより住民一人ひとりの意識も高まると考えられます。また、災害時に支援が必要な人の迅速な救助に備え、近所間で就寝場所の確認等の情報共有を行うことが重要です。避難訓練等については、実施内容等は自治会により差があるので、西黒田地区として自治会への働きかけを行い、地区全体の意識向上を図ることが必要であると思われま。

#### ◆住み慣れた地域でいつまでも暮らせる生活支援活動について

生活支援活動団体「西黒田きんたろうサポート会」は、現在高齢者やしょうがいのある方等を中心とした支援活動を行っています。各自治会にはさまざまな困りごとを抱えておられる家庭もありますが、関わりが難しい時はそっと見守る形になることもあります。

依頼に対する対応としては、各自治会にサポーターと世話人を設置し、基本は依頼のあった自治会内での対応となりますが、世話人が就業されていて急な調整ができなかったり、依頼の受け手がない場合もあり、自治会内で対応しきれない場合があります。

また、活動者であるサポーターは結成当初のメンバーが多く、高齢化が課題となってきました。今後も活動を継続できるよう、次の活動の担い手育成が重要であるといえます。

### 3. 理念と基本目標

#### ▶理念と基本目標

##### 1) 基本理念

第2期計画のスローガンとしていた「笑顔がつながるまちづくり～あいさつが心に響く、金太郎の里をめざして～」を引き継ぎ、引き続き住民参加による地域福祉を推進します。

##### 2) 基本目標

第2期計画では、西黒田地区内の地域福祉を3つの基本目標に整理し、活動の充実・発展を目指してきました。第3期計画においては、この3つを引き継ぎながら、第2期計画期間中の活動や社会情勢に合わせた活動を盛り込み、さらなる活動の推進を計ります。

#### ▶基本目標1「ほっとする居場所づくり」

##### 1) 基本目標の目指す姿

普段から気楽にご近所づきあいができることは、地域における様々な活動の土台ともいえる大切な関係性です。スローガンにもあるように、日ごろのあいさつ活動を推進し、地域のつながりづくりに努めます。

地区全体では、子どもから高齢者まで住民皆が参加できる行事が多く、まちづくりセンターを中心としてサークル活動、体操教室など多くの活動もあります。多世代が参加できる行事の開催により、高齢者にとって様々な人との交流や社会参加の機会になるとともに、若い世代は家族や友達と一緒にふるさと西黒田での楽しい思い出を増やすことができます。

また、自宅以外で安心して過ごせるサロン等の居場所は、孤立を防ぐ役割や、レクリエーションやおしゃべりなどによる健康維持増進の効果が期待されます。高齢者の居場所だけでなく、子育て世代など若い世代が気楽に集える場も創出することにより、同じ世代で悩みや思いを共有し、親も子ども地域でのつながりができ安心できる生活につながります。

このように、住民どうしの理解や共感を深め、日常生活の安心・楽しみとなる活動の一つとして、交流事業や居場所づくりの推進を図ります。また、これまでからあった事業や新たな取り組みを現状に合った形で開催することにより、地域住民のつながりづくりの推進と活動者の育成に取り組みます。

##### 2) 取組内容

###### ■子どもから大人まで、あいさつで笑顔あふれる地域づくり

子どもたちの安全確保とつながりづくりのため、登下校時のスクールガードに取り組みます。また、畑仕事や散歩等を登下校の時間帯に合わせ「8時・3時」に外に出て、子どもたちへの声かけを行います。同じ時間に住民が外に出ることで、住民どうしが顔を合わせ、あいさつと交流ができる機会を創出します。

- ・登下校時のスクールガード
- ・8・3運動（※登下校の時刻に合わせ、8時・3時に外に出て子どもを見守る取り組みです）

###### ■誰もが参加しやすい交流の場づくり

さまざまな世代と一緒に参加できる事業を開催し、地域住民のつながりづくりを推進します。また、西黒田ふるさと振興会議の各部会が連携・協同し行事等を開催することにより、

活動者の負担軽減を図り、継続可能な事業展開を目指します。

- ・金太郎フェス…**新規取り組み** ・ふれあい文化祭 ・親子芋ほり体験 ・わんぱく学習塾
- ・金太郎相撲大会 ・金太郎絵画展 ・クリーン作戦

### ■安心して参加できる居場所づくり

サロンや転倒予防教室の継続支援を行い、高齢者の居場所づくりに努めます。また、世代ごとに気楽に集まりおしゃべりを楽しめる場を創出し、若い世代も地域でほっとできる居場所づくりに取り組みます。

- ・各自治会のサロン支援 ・きんたろう転倒予防教室
- ・きんたろう茶屋 ・世代ごとの気楽な集まりの場の創出…**新規取り組み**

### ■交流の場からつながる仲間づくりと生きがいづくり

地域で楽しく安心して参加できる場を継続するために、各自治会のサロンボランティアなど、共に取り組む仲間づくりを大切にします。また、活動の場でのそれぞれの役割や出番をつくり、活動参加が生きがいにつながるよう取り組みます。

- ・サロンボランティア交流会や情報交換会
- ・活動をきっかけとした仲間づくり
- ・生きがいにつながる出番と役割

## ▶基本目標2「安全・安心な地域づくり」

### 1) 基本目標の目指す姿

ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者、しょうがいのある人など、地域の中で見守りが必要な人は今後も増加すると予想されます。また、近年の異常気象により、災害はいつでも起きて不思議ではありません。いざという時に地域住民全員が安全に避難できるよう、災害時を想定した日ごろからの見守り体制づくりが重要となります。

見守り活動には、挨拶やおしゃべりでのつながりづくり、またポストや郵便・電灯の様子から本人に会わずとも安否確認ができる「そっと見守り」など、状況に合わせて様々な取り組みが考えられます。普段からの関わりをベースとした見守り活動や、各自治会の福祉会議での情報共有を継続し、困りごとの早期発見や関係機関との連携を行います。

また、これまで災害の少なかった西黒田地区において、住民一人ひとりが防災の意識を高め、必要な備えを行えるよう、備蓄や避難訓練等の取り組みを推進します。

### 2) 取組内容

#### ■日ごろからの見守り活動推進

見守りが必要な人への訪問活動や、普段の生活の中で行うそっと見守りに取り組み、支援が必要な際にお互いに助けあえるよう、近所間での関係づくりに努めます。

- ・歳末慰問 ・愛のパトロール
- ・命のバトンの登録・更新支援 ・避難支援・見守り支えあい制度の登録・更新支援
- ・近所間のそっと見守り ・日ごろのご近所どうしの日ごろのおつきあい

#### ■地域で見守りあえる体制づくり

各自治会で定期的に福祉会議を開催し、自治会・民生委員児童委員・福祉委員を中心に情報共有を行うことにより、自治会内の見守り体制の強化を図ります。

- ・ 福社会議での情報共有
- ・ 自治会、民生委員児童委員、福祉委員等の連携強化

### ■防災の意識向上と準備

いつ起きるかわからない災害に対し、住民一人ひとりが意識を高め、地区、自治会、家庭の各規模で備えをしっかりと行えるよう、意識啓発や情報共有の研修会、自治会での避難訓練等に取り組みます。また、防災・福祉マップの更新を継続し、情報共有と災害時の迅速な支援につなげます。

- ・ 災害時を想定した取り組み強化
- ・ 自警団等との連携…**新規取り組み**
- ・ 防災・福祉マップの取り組み
- ・ 防災に関する研修会の継続実施

## ▶基本目標3「誰もが暮らしやすい仕組みづくり」

### 1) 基本目標の目指す姿

加齢や病気などによって買い物や家屋の修繕など日常生活に必要な事柄が困難になったときは、住民どうしでお互いに支えあう活動が重要となります。平成28年に発足した生活支援活動団体「西黒田きんたろうサポート会」による買い物ツアーや除草作業等、ちょっとした困りごとを解決する取り組みにより、地域住民がいつまでも安心して暮らせる地域づくりの推進を図ります。また、移動販売車の活動支援により、日常生活に必要不可欠な買い物が困難な高齢者等の生活支援を行うとともに、移動販売をきっかけとした住民どうしの交流や見守り活動、高齢者の社会参加につなげます。

現代における各家庭の困りごとは、複雑多様化してきています。困りごとを個人の問題ではなく地域全体の課題と捉え、地域住民と専門職が連携し、解決に向けて話し合える場づくりを進めることが必要とされます。西黒田地区では、子どもから高齢者まで様々な年代に応じて自治会域や地区域で地域福祉活動（居場所づくり、見守り活動、暮らしの支えあい活動など）が推進されています。今後もさらに各種福祉団体、施設、専門職が協働することによって、さらに充実した地域福祉活動が推進されるとともに、各福祉団体が推進されている福祉活動に住民みんなが関心を持ってもらえることが重要となってきます。

### 2) 取組内容

#### ■困りごとを気軽に相談できる地域づくり

まちづくりセンターに設置している「生活相談窓口」や、毎月1回民生委員児童委員と専門職が待機する「暮らしの相談窓口」の周知啓発を行い、困りごとを気軽に相談できる地域づくりを目指します。住民の困りごとは個人の課題ではなく地域課題として、専門職と連携し解決に向けた検討を行います。また、認知症やしょうがい、ひきこもりなど現代社会の様々な課題について、住民一人ひとりが理解を深め、日々の生活の中でお互いに支えあえる地域づくりに取り組みます。

- ・ 相談窓口の周知啓発
- ・ 暮らしの支えあい検討会の継続実施
- ・ 様々な困りごとの理解促進…**新規取り組み**



### ■生活支援活動の推進と担い手づくり

生活支援活動団体「西黒田きんたろうサポート会」のサポーターがお買い物ツアーや草刈り、病院送迎など地域住民のちょっとした困りごとの支援を行い、地域の困りごとをお互いに支えあえる体制の充実を図ります。また、定期的な活動内容の見直しとサポーターの育成を行い、活動継続に取り組みます。

- ・日常生活支援活動の継続実施
- ・活動内容の定期的な見直しと活動者の育成
- ・活動者交流会の実施…**新規取り組み**
- ・移動販売を活用した生活支援および見守り活動の実施…**新規取り組み**

### ■地域福祉の活動推進に向けた連携

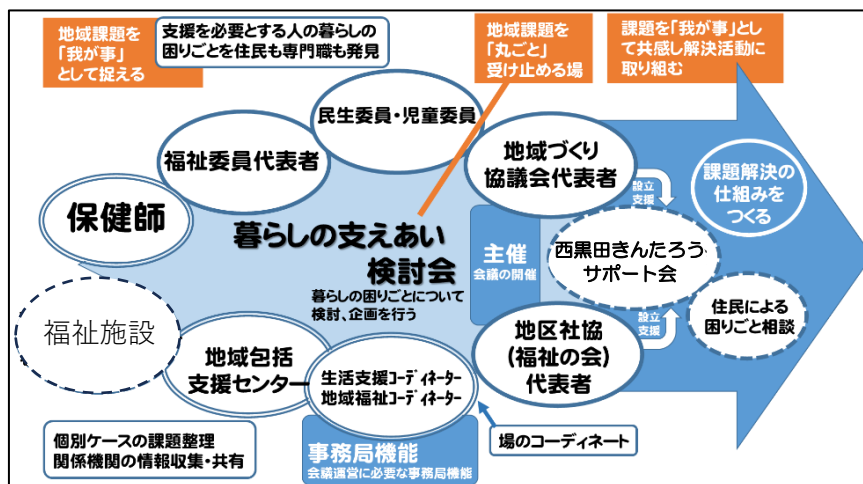
様々な地域福祉活動の推進に向け、各団体や専門職等との連携を図ります。

- ・各種福祉団体・専門職等との連携

### ■地域の情報発信による福祉活動の啓発

定期的に広報誌を発行し、地域住民が福祉活動に対する関心を高めることができるよう啓発を行います。

- ・広報誌「西黒田ふれあいだより」の発行



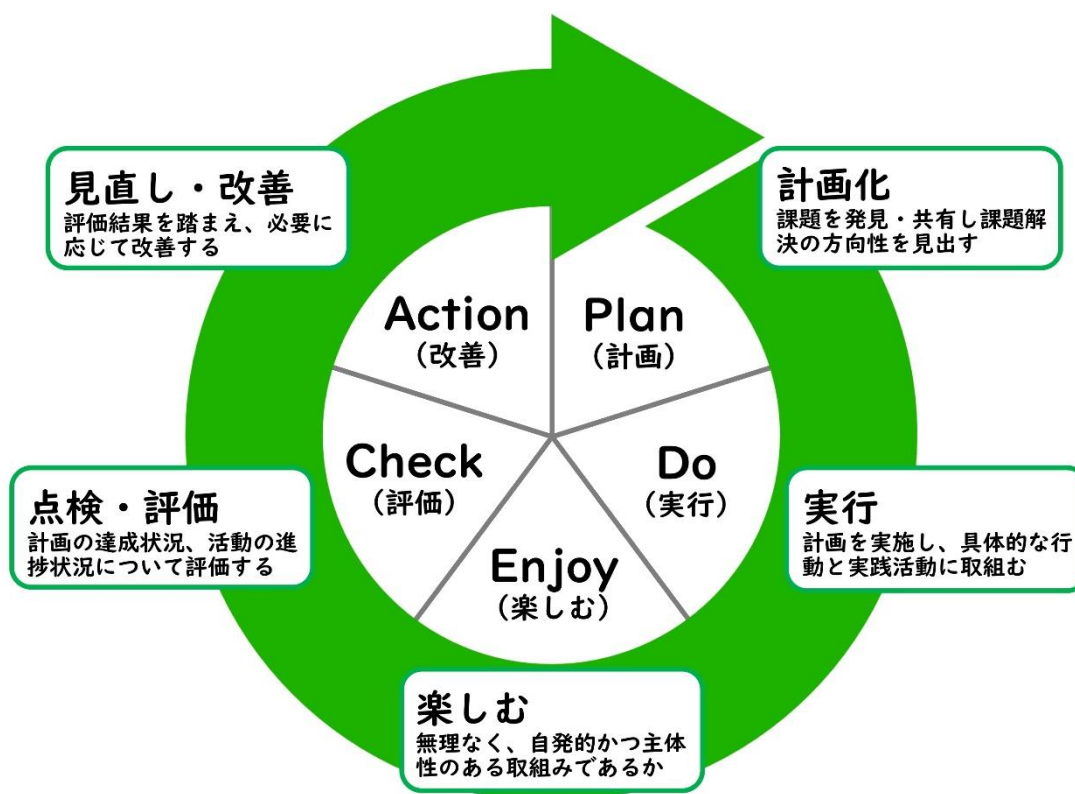
地域の困りごとを普段のつながりや生活相談窓口でキャッチし、「暮らしの支えあい検討会」で住民と専門職が話し合うことで、課題解決に向けた取り組みを行います。

## 4. 計画の推進方法

### ▶計画の推進方法

計画の実効性を高め、円滑で確実な実施を図るため、西黒田地区社会福祉協議会を中心に各関係団体と連携し、計画の適切な進行管理を図ります。定期的に計画の進捗状況や達成度を把握、評価し、必要に応じて適宜見直しを行います。

常により良い活動や取り組みを推進するPDCAサイクルに「E (Enjoy) 楽しむ」の要素を盛り込み、地域住民が楽しさを感じながら無理なく地域福祉活動の推進に取り組める体制を整えます。



### ▶計画の推進体制

西黒田地区社会福祉協議会を中心に、各団体と連携しながら定期的な活動の推進や進捗管理に取り組めます。

## 5. 計画策定に関わる情報

### ▶計画策定に関わる作業概要（日程）

会議名	実施日	内容
令和5年度第3回かなえちゃん会議 (コアメンバー会議)	令和5年2月10日	●第2期計画ふり返り ●アンケートについて
令和5年度第1回かなえちゃん会議	令和5年5月18日	●第3期プランについて説明 ・基本理念と基本目標について ・策定体制、手法について ・策定スケジュールについて ・アンケートについて
第1回策定委員会	令和5年6月17日	●第3期プランについて説明 ・基本理念と基本目標について ・策定体制、手法について ・策定スケジュールについて ・福祉懇談会、アンケート内容の協議
暮らしの支えあい検討会 (福祉懇談会)	令和5年7月15日	●専門職の紹介、地区のデータについて ●意見交換会 ●アンケート結果について
第2回かなえちゃん会議	令和5年8月21日	●アンケート、福祉懇談会ふり返り ●基本目標について
第3回かなえちゃん会議	令和5年10月26日	●計画素案について
地区社協三役会	令和5年11月16日	●計画素案（修正案）について ●ダイジェスト版の内容について
第2回策定委員会	令和5年11月18日	●計画素案について ●全体について意見交換
地区社協三役会	令和5年12月14日	●計画素案（修正案）について ●ダイジェスト版の校正 ●長浜市地域福祉活動計画本誌への掲載内容について
第4回かなえちゃん会議	令和6年1月19日	●計画素案（修正案）について ●ダイジェスト版について ●長浜市地域福祉活動計画第4章への掲載内容について
令和6年度西黒田ふるさと振興会議通常総会	令和6年4月頃	●本誌・ダイジェスト版の紹介
自治会発送	令和6年4月以降	●ダイジェスト版全戸配布

▶第3期西黒田地区福祉活動計画策定委員会名簿

役職・団体		氏名	備考
西黒田ふるさと振興会議	会長	高森 喜兵衛	
西黒田ふるさと振興会議	副会長	大橋 俊弘	
西黒田ふるさと振興会議	副会長	池野 弘和	
西黒田ふるさと振興会議	企画運営部長	田中 傳造	
西黒田ふるさと振興会議	安全環境部会長	江崎 道幸	
西黒田ふるさと振興会議	青少年健全育成部会長	森 幹雄	
西黒田ふるさと振興会議	体育文化部会長	池野 則男	
地区社会福祉協議会部会	部会長	若林 宏	コアメンバー
地区社会福祉協議会部会	副部会長	橋本 文男	コアメンバー
地区社会福祉協議会部会	副部会長	濱田 美佳	コアメンバー
地区社会福祉協議会部会	企画委員	北村 由子	
地区社会福祉協議会部会	企画委員	若林 佳子	
地区社会福祉協議会部会	企画委員	大橋 康治	
地区社会福祉協議会部会	企画委員	藤居 昇	
地区社会福祉協議会部会	企画委員	清水 聖子	
まちづくり研究会	会長	西川 満	
まちづくり研究会	副会長	藤居 昇	
西黒田きんたろうサポート会	会長	橋本 文男	※兼任
西黒田きんたろうサポート会	副会長	清水 智夫	
西黒田きんたろうサポート会	副会長	山本 章子	コアメンバー
民生委員児童委員		若林 宏	※兼任
民生委員児童委員		小川 富士子	コアメンバー
民生委員児童委員		川村 良治	コアメンバー
民生委員児童委員		引山 満寿美	コアメンバー
民生委員児童委員		田中 傳重	コアメンバー
主任児童委員		中嶋 綾子	コアメンバー
地域活力プランナー	事務局長	山根 敏彦	コアメンバー